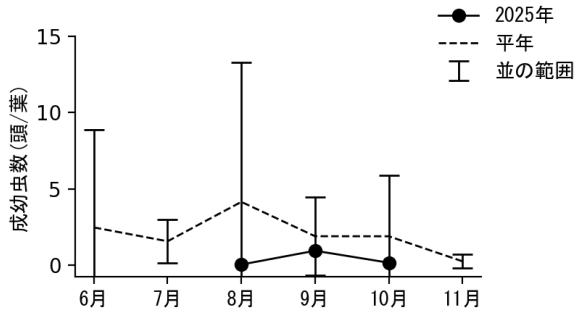
令和　7 年度　11 月予報

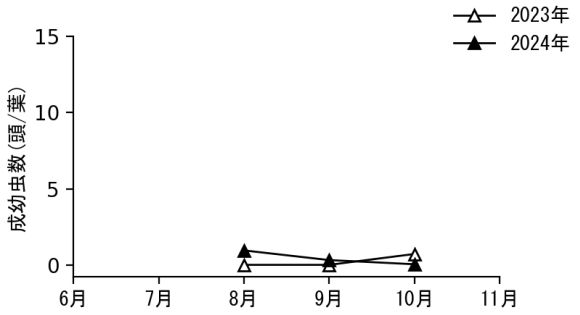
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並	
予　報	10 月からの増減傾向	→	
	11 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果

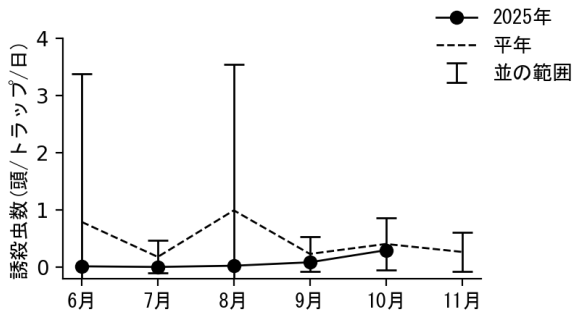
葉当たり成幼虫数の推移（今期と平年）



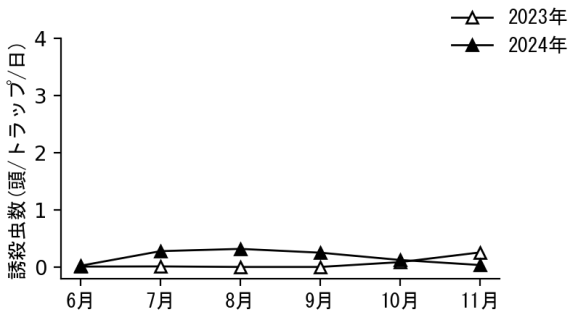
葉当たり成幼虫数の推移（過去２年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（今期と平年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（過去２年）



・発生施設率60.0%（平年：68.8%）

防除のポイント

・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ナガエコミカンソウ

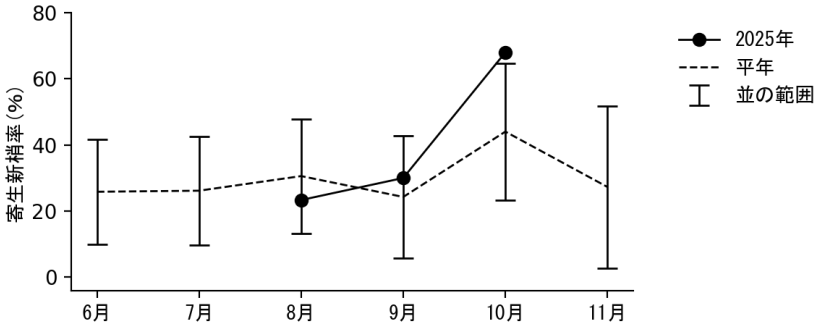
令和　7 年度　11 月予報

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多		
予報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

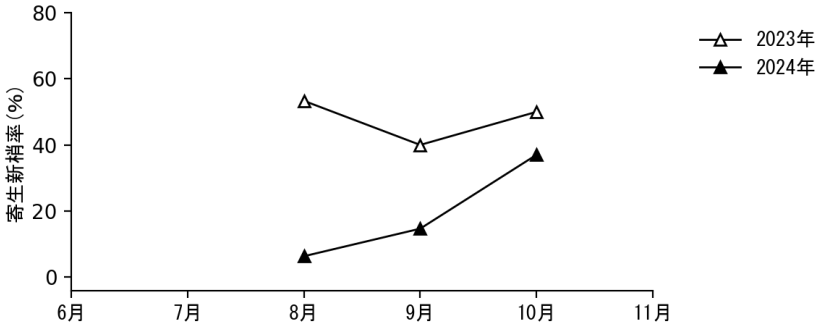
調査結果

寄生新梢率の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率80.0%（平年：73.0%）

・一部施設で多発

防除のポイント

・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

被害葉

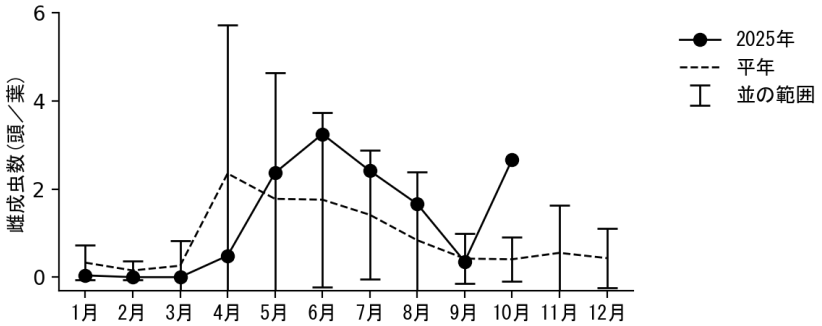
令和　7 年度　11 月予報

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類		マンゴーツメハダニ	
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多		
予報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

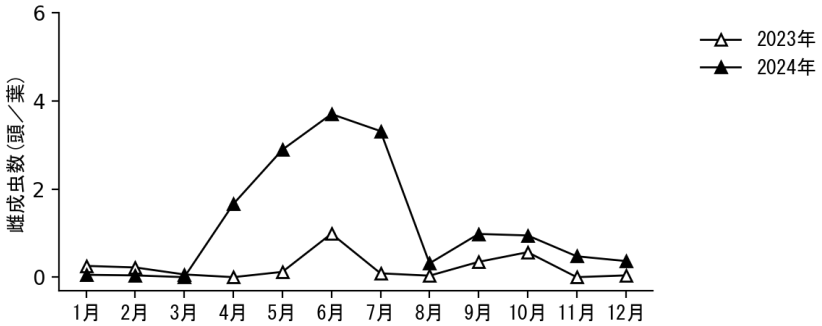
調査結果

雌成虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生種：マンゴーツメハダニ、シュレイツメハダニ
・発生施設率80.0%（平年：36.7%）
・一部施設で多発

防除のポイント

・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少なく、天敵を保護しながらの防除が期待できる。

ハダニの寄生による葉のかすれ症状